



フリースタイルで活躍する荻原さん



今後に期待がかかる前田さん

Discovery
松商学園高等学校
Season VI

スキー同好会 新体操部

松商学園高校のスキー同好会の前田知沙樹さん(2年II以下学年は現在)が、第27回全国高校選抜大会(2月)の回転で優勝した。荻原和さん(同)もぐんま冬国体フリースタイル・モーグル(2月)の少年女子で準優勝。また新体操部の清澤球乃さんの第30回全国高校選抜大会(3月)の個人総合で4位だった。3人に話を聞いた。

前田さん 荻原さん 友と共に目指すは五輪

しまった。でもあの悔しい経験が選抜大会優勝につながり、そして全日本スキー連盟(SAJ)のポイントが1位で今シーズンを終了できた原動力になった」と話した。

荻原さんは「ぐんま国体で準優勝できたことも素直につれしい

前田さんと荻原さんはクラスも一緒。2人とも小・中学校時代もスキーで活躍していたが、互いに意識がなかったという。入学してすぐ、荻原さんは「(前田さんの)顔がスキー焼けしているから、この人は私と一緒にスキーをやる人だと直感した」と言う。2人はすぐに意気投合。友情を育み、「いつも一緒にいる」と前田さんが、今シーズンを振り返り、前田さんは「インターハイ(全国総体)で負けたことが悔しい。コースアウト、予選敗退。力み過ぎ、気持ち先走った。アグレッシブに行き過ぎて

が、第35回FIS全日本スキー選手権大会でユアルモーグルで4位になったことが良かった。ワールドカップに出場している選手と競い合って負けなかったこともシーズンの印象として残っている」と話す。

さらに2人は、ワールドカップで活躍し、



賞状を手にする前田さん(左)と荻原さん

オリンピック出場など夢を語りながらも、共に学習に対する意欲も高く、「時間を大切に、集中して勉強に取り組み続けていきたい」と両立に向け力強く話していた。

清澤さん 努力で勝ち得た新演技



清澤さん(全日本新体操選手権大会昨年11月)

昨夏の全国総体予選の北信越総体で3位に終わり、全国出場ができず悔しい気持ちを残した清澤さん。自らの課題を見つめ直し、繰り返し練習し改善してきた。

1月に選抜大会への出場が決まり、コーチらと相談し、4種目(フープ、ボール、クラブ、リボン)のうち、ボールとクラブで新たな曲、演技に挑戦することを決めた。まず1週間ほどだけ、清澤さん1人で難易度の

高い技などを取り入れたが、「成功率が低く、なかなかうまくいかなかった」。特にボール演技の成功率が悪く、ひたすら練習を繰り返したが、「できないからといって諦めたくなかった」と話す。

大会当日、直前までうまくできず不安を抱えていたボールで、一番良い演技を披露し、高得点をマーク。表彰の可能性も高まったが、あと1歩届かなかった。「高い評価をもたらえたことに喜びを感じた。5月末からインターハイにつながる大会が始まるので、しっかり準備したい。団体、個人でも勝ちたい」と話す。